

# 演題名 福祉用具とニーズ

御所属 永生会・地域リハ支援センター

石濱 裕規

講師

## 内容

### 【1. 在宅における福祉用具ニーズ】

—ベッド上におけるニーズの実現と活動性向上を図るための在宅支援サービスに関する研究—  
—(平成18年度フランスベッド・メディカルホームケア財団助成研究)より—

**目的:** 訪問看護・リハ従事者が起居動作困難な利用者ニーズを理解・支援すること。

**方法:** 八王子市内利用者302名中起居困難な70名のニーズを予測(職員)し、ニーズ調査実施(利用者)。⇒支援・介入(福祉用具適合・起居練習・除圧指導・勉強会等)

**結果:** 介入群(34名)群は、未介入群(10名)に比べ、左右寝返り・起き上がり動作能力(COV5改)・FIMで有意な改善あり(介護度平均両群共4.4)。特に、福祉用具適合支援を行った12名中6名で改善。在宅での福祉用具適合は重度者のADL向上に寄与。

### 【2. 介護保険施設における福祉用具ニーズ】

—「認知症をもった要介護高齢者の介護状況並びに福祉用具に関する調査研究」—  
—(厚生労働省 平成20年度老人保健健康増進等補助事業)より—

**事業概要:** 都内介護保険施設・病床を利用されている認知症をもった要介護高齢者の家族・職員を対象とし、介護状況・福祉用具利用状況を調査した。

**方法:** 介護療養、老健、特養利用者を対象とし、現状の介護認定調査と福祉用具利用状況調査を実施(職員に依頼実施)、家族・施設責任者調査を併用実施。

**結果:** 職員調査:2733件回収(脳血管疾患39%、認知症32%、平均年齢83.5歳、要介護5約半数)。分析対象2583名。家族調査は1347名(介護療養のみ実施)。

「抑制帯・四方を柵で囲む」等の行動制限につながる福祉用具利用要因として、認知症の問題行動関連項目と転倒等の危険度が選択された(ロジスティック回帰分析)。抑制帯利用率は、普通型車いす利用群で高く、同群内では座位能力が低い(不適合性が高い)ほうがその傾向は有意に強かった(福祉用具不適合は身体拘束の一因)。介護保険施設内での福祉用具貸与を希望する家族は約2/3にのぼった。

